

## ハイブリッド方式の次期特急車両（試験走行車）のデザイン等について

特急「ひだ」「南紀」に使用している85系気動車の取替を見据え、2019年末に走行試験を開始する予定の「ハイブリッド方式の次期特急車両（試験走行車）」のデザイン、安全性を高めるために新たに導入する技術が固まりましたのでお知らせします。

### 1. デザイン

飛騨・南紀地区をイメージした「和」をコンセプトとしています。



エクステリアデザイン



インテリアデザイン（左：グリーン車、右：普通車）

#### （1）エクステリア

「漆器の持つまろやかさや艶のある質感」をコンセプトとし、特に先頭車の前面、上部、照明を滑らかな曲線形状にすることで「和」を表現するとともに、車両の前面から側面に繋がるオレンジ色の帯を曲線にして「躍動感」を表現しています。

#### （2）インテリア（別紙1）

グリーン車は「落ち着いた上質感」、普通車は「明るいワクワク感」をテーマとしています。さらに、室内に木目調の内装材を採用することで「木のぬくもり」を演出しています。

### 2. 安全性を高めるために新たに導入する技術（別紙2）

エンジンで発電した電力と蓄電池に貯めた電力を組み合わせ、モーターを回して走行することで、安全性・快適性の向上や環境負荷の低減が期待できるハイブリッド方式に加え、以下の装置を導入し、安全性をより向上させます。

#### （1）一体成型による新型台車枠

溶接箇所を少なくし、重要溶接部を約6割削減（※）します。※313系電車との比較

#### （2）振動検知装置

台車等の振動状態を常時監視し、異常が発生した場合に迅速に検知します。

#### （3）車両・地上間のデータ通信

車両状態のデータを車両基地等に送信し、メンテナンスに活用することで異常の発生を抑制します。また、タイヤが乱れた時に運行情報を客室内の案内表示器に表示することで、お客様へのご案内を充実させます。

### 3. 今後の計画

- ・2019年末の試験走行車完成後、1年間を目途にハイブリッド技術の確立に向けた基本性能試験、長期耐久試験等を行います。
- ・量産車は2022年度を目標に投入する方向で検討を進めています。

# インテリアデザイン

## ◆飛騨・南紀地区をイメージした「和」をコンセプトとし、「木のぬくもり」を演出

### グリーン車「落ち着いた上質感」



- ・沿線の新緑と、美しい川や夕暮れの紫の空をグラデーションで表現したデザイン
- ・落ち着いた濃い茶色の木目調の内壁

### 普通車「明るいワクワク感」



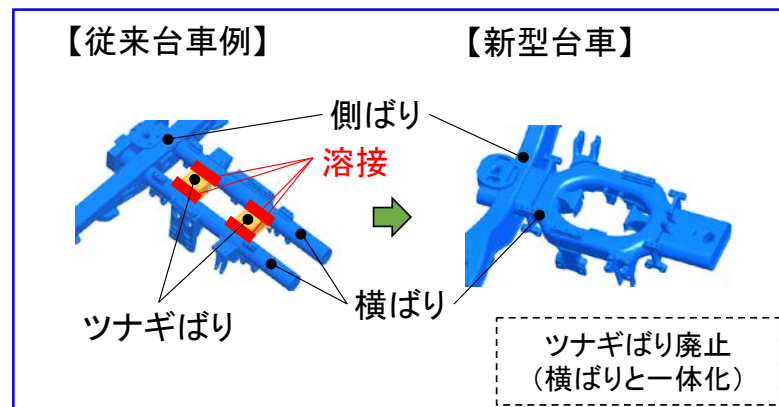
- ・沿線の紅葉と、祭り・花火のイメージをグラデーションで表現したデザイン
- ・明るい茶色の木目調の内壁

## ◆快適性・利便性を追求した車両設備

- ・コンセント(全座席)
- ・客室内荷物スペース
- ・温水洗浄機能付洋式トイレ
- ・防犯カメラ(客室・デッキ)
- ・防音床
- ・セミアクティブダンパ(グリーン車)

## (1) 一体成型による新型台車枠

- ・溶接箇所を低減により、重要溶接部を約6割削減  
※313系電車との比較

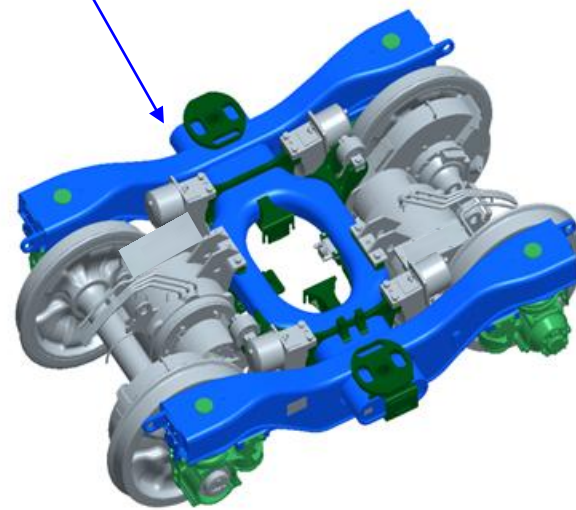


## (2) 振動検知装置

- ・台車の振動状態を常時監視し、異常が発生した場合に迅速に検知して、運転台に表示

## (3) 車両・地上間のデータ通信

- ・車両状態のデータを車両基地等にリアルタイムに送信し、メンテナンスに活用することで異常の発生を抑制
- ・ダイヤが乱れた時に運行情報を車両に送信し、客室内の案内表示器に表示することで、お客様へのご案内を充実



新型台車枠